

音楽文化研究

第12号

2013年3月

聖徳大学大学院音楽文化研究科
聖徳大学音楽学部
音楽文化研究会

音楽文化研究

第12号

2013年3月

聖徳大学大学院音楽文化研究科
聖徳大学音楽学部
音楽文化研究会

音楽文化研究 12 目 次

【論文】

1. 英語圏のバラッド歌唱におけるジェンダー交差について 高松晃子 1

【研究ノート】

1. 高齢者音楽療法セッションの回想法における
刺激と反応の可能性とその類型 原沢康明 11

2. 中学校音楽科における創作指導の発案とその一考察
—附属女子中学校での実践を通して— 松井孝夫 15

音楽文化研究 投稿細則

編集後記

編集委員

ウェブページ

中学校音楽科における創作指導の発案とその一考察 —附属女子中学校での実践を通して—

松井 孝夫

はじめに

本研究は、「言葉や音階の特徴を生かした創作活動～“音”から“音楽”へと自然につながる創作活動の進め方～」と題して、中学2年生を対象に、50分の授業4時間構成で、基本的な楽典知識定着から作曲、発表に至るまでの取り組みを実践・検証し、中学校音楽科における、よりよい創作指導の在り方を追究するものである。

教育の現場では「創作指導をどのように進めていいってよいかがわからない」「題材の設定や評価が難しい。発表時の達成感も低い」等、多くの課題を抱えながら創作の授業を模索している状況をよく聞いている。そんな中で今回、音を音楽へと構成していく体験を重視し、アルトリコーダーや打楽器などを実際に演奏しながら音のつながり方を試すなどの活動を多く取り入れた授業を試みることにした。クラス生徒を小グループに分けて、3つの特徴的な音階（民謡音階、沖縄音階、長音階に基づいたコード進行）と言葉（五七五の定型詩）などを手がかりにいざれかの作曲を行わせ、工夫しながら創作するとともに、アンサンブルを楽しみながら最終発表へとつなげていく取り組みとなった。

この取り組みを実践する中で心がけたこと、また実際にやってみて改善、工夫が必要と思われたことなどをまとめ、中学校音楽科において機能的であり、効率的な創作指導を明らかなものにしていくことが本研究の目的である。

1. 音楽科教育に今、求められているもの

1-1. 創作の学習を改善充実

「思いや意図を持って表現したり、味わって聴いたりする力」を育成することは、音楽学習活動のもっとも中心的で、第一に目指さなくてはならない目標の一つである。これまでに多く見られた教師主導型の音楽学習活動では、生徒に「思いや意図」を持たせたり、「味わって聴

いたり」させることはなかなか難しいというのが実際である。まず自分にとって音楽とは、どのような価値があるのかを見出させる必要があり、そのためには、音や音楽を「知覚・感受」する力を身につけさせなければならない。また、生徒がそれまでに育んできた知識や技能を活用する必要がある。

音楽学習活動の過程で必要となるものが、音や音楽を媒体とした人ととの関わりである。学校教育における音楽学習活動では、その過程において個人が自分と関わった音や音楽に対する思いや考え、自分にとっての音楽的価値を言葉や音によるコミュニケーションなどを通して他者に伝えたり、その考えを共感したり、音楽的価値を共有したりすることが重要なこととなる。また、人と人が同じ音楽にかかわることによって、音楽は個人にとって、より価値のあるものへと深化していったり、音楽的価値を共有することによって感動の共有へと発展させたりすることが可能になる。今日、言語活動の重視や音楽でのコミュニケーション、価値の共有など、人と人とのかかわりが強く求められている中で、この部分は重要な位置を占めるものであると考える（小松 2010: 3）。

- ・自分自身で価値判断できる力
- 知覚・感受・理解（音楽表現の創意工夫）
- ・音や音楽で表現できる力
- 音楽表現の技能
- ・自分の言葉で語る、文字で表現できる力
- 批評・評価（鑑賞の能力）
- *また、この3つの力を推進する原動力となるのが学習意欲
- 音楽への関心・意欲・態度

上記の□に囲まれているキーワードが相互に連関する中で、思いや意図をもって表現できる生徒を育成していくことが、今、音楽教育において求められていることと言える。

1-2. 音楽科教育の課題

平成19年に学校教育法が改正され、知・徳・体のバランス（教育基本法第2条第1号）とともに、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し（学校教育法第30条 第2項）、学校教育においてはこれらを調和的に育むことが必要である旨が法律上規定された。よって音楽科における学力をいかにして高めるかということを課題とし真摯に取り組んでいかなければならぬ（今井; 酒井 2012: 3）。

さて、平成20年告示の学習指導要領では、創作の充実を図ることが示されている。その背景には、実際すべての学校で「創作の授業」が行われていると言えない状況があつたためである。その理由として考えられることは「授業の進め方がわからない」「創作は時間がかかりそう」などである。そういう課題を克服するために、分かりやすく、楽しく、ステップを踏んで取り組んでいけるような指導メソッドを構築していくことが望まれる。

指導メソッドを構想する中で、改めて「創作」は音楽における基礎的・基本的な知識・技能が定着し、思考力・判断力・表現力等が育まれていく学習であり、子どもたちが意欲的に取り組める活動であることを実感した。

さらに、創作活動は、音楽の諸要素〔共通事項〕を生徒自身が直接扱うことができる。また、創作活動において、音楽の諸要素の働きを実感（感受）することができる。そのようなところが、新学習指導要領での創作の重視たる‘ゆえん’と言えよう。

ちょっとした「仕掛け」や「つかみ」で子どもたちの表現したい気持ちを引き出していけるようなアイディアを発案し、楽しい活動の中に学びもしっかりと折り込まれていく題材指導計画を以下の章で掲載する。

2. 創作活動単元の実際

生徒が楽しみながら主体的に取り組める創作授業を4時間扱いの授業で行う。題材名は、「言葉や音階の特徴を活かし、表現を工夫して作曲しよう」である。尚、題材の目標、題材の評価規準、指導観、生徒観、教材観、指導と評価の計画等の詳細については研究資料の「中学校第2学年音楽科学習指導案」にて表記する（資料1 PP.20-22参照）。ここでは大まかなラインアップについて、その項目を記す。

2-1. 導入: 言葉の持つリズムや抑揚を意識して創作する。

作曲の前提となる「言葉とリズムの関係」を学習し、8小節一部形式の簡単な旋律を創作する。

第1時：いろいろな曲種の雰囲気を味わおう／言葉とリズムの関係を理解する

- ・曲種の違う音楽の雰囲気を味わう。
- ・簡単な旋律作りのステップ学習
- ①リズム叩きをする
- ②リズムに言葉を付ける
- ③言葉にリズムを付ける

第2時：言葉の持つリズムや抑揚を意識して旋律を作る
簡単な旋律作りのステップ学習

- ④リズム譜に旋律を付ける
- ⑤4小節、8小節（一部形式）の曲にまとめる

2-2. 発展: 音階の特徴を生かし、曲種にあったメロディを創作する。

構成音の違いによる曲の雰囲気の違いを学習し、グループごとにそれぞれ曲種にあった曲を創作し、発表する。

第3時：それぞれの曲種にあった旋律を作る

- ・グループ編成（作曲ジャンルの決定）
- ・それぞれの曲種にあった伴奏
- ・メロディが作りやすい歌詞
- ・歌詞をもとに作曲するプロセス
- ・楽器の分担と歌詞の選定
- ・グループごとに作曲／練習
- ・グループごとの中間発表

第4時：グループごとに発表し、成果を味わう

- ・グループごとの本番発表
- ・創作の授業のまとめ

3. 附属女子中学校での実践

3-1. 授業の実際

平成24年6月17日、聖徳大学附属女子中学校において授業実践を行った。授業対象の生徒数は、24人。中学2年生、3年生が半々の特設メンバーである。今回、臨床的な実践研究を行うために協力をお願いしたところ、快く引き受けていただき実現した。場所は、授業において附属女子中学校の音楽室、グループ練習はパート練習室、創作作品の演奏発表は同校の奏楽堂で行った。

第1時では、まず趣旨を説明し、授業の内容である1.曲を聴いたり、2.リズムを叩いたり、3.リコーダーを吹いたり、4.歌を歌ったり色々なことをしながら作曲にア

プローチしていくという話をした。そして、最終的にはタイプの違う3種類の曲をグループで分担して作り、それを発表して成果を確かめる所までやっていくと、目標について言及した。

3-2. 授業の導入

以下、この節では導入での発問の流れを記していく。

Q1.教師:「今から雰囲気の違う3つの音楽を流します。

これらを聴いて次の質間に答えてください」

①どんな情景、景色を思い浮かべたか？

②どこの地方の音楽か？

③季節は？

④曲名がわかれれば、答えてください。

【使用する曲】

1曲目：富山県民謡「こきりこ節」

2曲目：沖縄県民謡「谷茶前」

3曲目：埼玉県秩父地方で生まれた「旅立ちの日に」

Q2.教師:「それでは、それらの答えはなにを手がかりにして、そう思ったのか、答えてください」

〈生徒の答え〉

「歌詞からそんな感じがした」「メロディの雰囲気やリズムからそう思った」「沖縄っぽいかんじがしたから」「歌ったことがあって知っていたから」等

教師：「そのように“～っぽい”とか“～な感じがする”や“～の音楽じゃない！”と感じられるのはどうしてか。その秘密の謎解きをこれからしていきましょう。その前に、音楽づくりのウォーミングアップということで創作活動の準備体操である〈作曲の基礎〉を学習していきましょう。作曲をするにはある程度、音符や休符が読めたり書けたりしないといけません。」

ステップ1

四分音符2拍分10種類のバリエーションによるリズム叩き。フラッシュカードを見ながら一定のリズムに乗って、叩いていくというもの。

このようにして、つかみの部分（導入）をテンポよく進めていった。

以降、ステップ2～5までの作曲のための基礎学習は4枚のワークシートを活用しながら進めていった（資料2 P.23参照）。それらのポイントとなるキーワードと指導における教師の留意点を次節で述べる。

3-3. 授業の展開(1)

ステップ2

「リズムに言葉を当てはめる」活動で、3つのルールを示した。

①4分音符は、伸ばす言葉で。（例：ゴーキー、シーソー）

②8分音符は、言葉1文字で。（例：みそしる ごま）

③音符の間の休符は、撥音便（例：なつとう、ケチャップ）そのルールに従い、生徒は単語を探し出す活動後、それぞれの思いついた言葉とリズム叩きをリレー式に順番に行なった。

・留意点：リズム叩きをする際、休符を意識して叩くコツとして、4分休符は「グー」で手を下に降ろし、8分休符は「パー」で手を開くようなルールとした。そのことにより、休符の拍感を身体で体得できるようになる。

ステップ3

「言葉にリズムをつける」活動で、五・七・五の俳句にリズムをあてはめるものである。

《しづけさや いわにしみいる せみのこえ》を4分の4拍子で4小節の楽譜に満遍なく音符、休符がちりばめられるように、工夫してリズムを作る活動。

・留意点：教師は（よい例）と（悪い例）を示して、望ましい休符の入れ方を示唆する。

また、「星座表」といって言葉の抑揚を点と線で表す表を作成し、言葉の持つ自然な抑揚にあわせてメロディを考えられるような手立てを生徒に獲得させる。

ステップ4

「4小節でドレミファソの5音を使った作曲」であり、以下2つのルールを守って作ることを指示。

①5つの音のみで作曲する。

②曲の最後の音は、ドであること。

・留意点：ステップ3で作ったリズムを使って、そのまま旋律を考えていくが、作っているうちにさらに素敵な旋律が思い浮かべば変更することはその限りでないことを伝える。

ステップ5

基礎編の最終ステップ。ステップ4で作った旋律を拡大して、8小節にまとめる活動である。

《すてきだな おくのほそみち いきたい》という歌詞を付け加えて、星座表を作成し、旋律作りを行う。音楽の幅を広げるため、ドレミファソラシドのオクターブに音域を広げて作ってよいこととする。

・留意点：旋律を作る際、気を付けることとして、1段目は次に続くような旋律となるように心がける。最後はここで終わると思える音を使う。ポイントとして、

「反復、変化、続く感じ、終わる感じ」を意識して作曲する。

3-4. 授業の展開(2)

基礎編で作曲の基本を身につけたところで、次は、応用の段階。この单元の最初に聴いた3曲がなぜそのジャンルの曲に聞こえるのか、その謎解きを行う。

3つの音階(資料2のA P.24)を生徒がアルトリコーダーで吹くことで、それぞれの音列の違いに気づき、これがそれぞれの曲趣を表す起因となっていることを知覚する。

さらに、「こきりこ節」「谷茶前」「旅立ちの日に」を演奏し(資料2のB P.24)、曲趣を感受する。

そこで、次の課題である「それぞれの曲種にあった旋律を作る」ことを伝える。

1. グループ編成(小グループ(4人)を6グループ作り、それが取り組むべく作曲ジャンルをくじ引きで決定する)「民謡音階」「沖縄音階」「長音階・ポピュラー音楽のコード進行」を分担して共同制作を始める。



2. 「それぞれの曲種にあった伴奏」のワークシート(資料2の「伴奏にあわせて作曲しよう」三種)を手がかりに、作曲に臨む。當時流れる合いのメロディ(「沖縄音階」)やリードメロディ(「民謡音階」)やポピュラー音楽定番のコード進行(「長音階」)を手がかりにグループ毎に作曲活動を展開する。



3. メロディを作りやすくするためにそれぞれの曲種にふさわしい歌詞(資料2の「言葉の種」)を提示する。一方で、生徒の創意に任せて自由な歌詞を考えさせる。



4. 歌詞をもとに作曲するプロセスの提示
星座表 → リズム譜 → 旋律創作(伴奏・合いの手等に乗せて)



5. おおよそ旋律作りができたところで、旋律楽器、和音伴奏、リズム楽器の分担を決める。



6. グループごとに進捗状況を相互に確かめ合うために中間発表を行う。(成果と課題を確認し本発表に向けて修正を加えていく。)

3-5. 授業のまとめ

「グループごとに発表し、成果を味わう」ということで奏楽堂のステージで他の仲間の前で演奏会形式で行った。

8小節1部形式の曲を1回目は、楽器演奏のみで、2回目はそれぞれが付けた歌詞を歌に乗せて発表した。

沖縄音階のグループは、おはやしのようなかけ声をいれ沖縄のムードを色濃くしていた。また、ちゃんちきの鐘や笛などでエイサーの雰囲気を醸し出したりといった工夫をしていた。民謡音階のグループは、和太鼓のイメージを出すためにいすを太鼓に見立ててたたいたり、かけ声を効果的に用いたり、歌詞を反復する中で民謡のティストを浮き立せたりといった創意が見られた。ポピュラー音楽のコード進行に乗せた長音階のグループは、裏拍の軽快な手拍子をいれたり、ハモリパートをつけて歌ったり、オブリガートを付けたりと合唱曲のような雰囲気を出す演出がなされた。

創作の授業のまとめ

- 「生徒が今回の活動で学んだこと」アンケートから
- ・音階によって曲の雰囲気が全く変わるものだと実感した。(音階って大事なんだと思った。)
 - ・伴奏形、速度、音色などによっても曲調が全然変わり、楽しいものになることがわかった。
 - ・音階や和音を手がかりに作っていくのは楽しいし、案外簡単に曲が作れることを学べた。
 - ・色々なジャンルの音楽があることを知り、もっと他のジャンルの音楽を知りたいと思った。

作曲上の留意点

1. メロディ先行で作ってしまうと歌詞があてはまらなくなるので、言葉の自然な抑揚を意識しながら歌いながら曲を作っていくのが理想である。
2. メロディ優先で作っていたときに歌詞が足らなくなったりときは、①歌詞をリフレインする。
②ルルル、ラララを付け足す。
③休符を効果的に使う。

4. 考察

本研究の目的は、新学習指導要領のねらいをふまえて、創作活動が中学校音楽科においてこれまで以上に実施され、成果をあげていくための一つの提案になればとの思いで、題材指導計画を発案することであった。実際に中学生を対象に授業実践してみて考察したことを以下、書き連ねてみる。

創作につながる学習や活動はどのようなものがあるかと考えたときに、元来、音楽は人間の営みから生まれた芸術なので何にでもつながっていると言えよう。

そこで考えたのは、まずは、明るい気持ちになる活動、音楽がおもしろいと思える学習活動をさせることが大事

であるということ。次に、心地よい美しい音や音楽を聴かせることが大切であるということ。さらに、音や音楽の特徴を言葉で伝えられるようにする力を育てていきたいものであると考えた。

授業実践において、基礎的な内容については、生徒に身近な言葉などを使って、ゲーム感覚でリズムをたたいたり、言葉を発したりして楽しみながら、音符や休符の長さやリズム感を体得できるよう工夫をした。

また、実際に8小節の作品を作る際、「次に続く感じにするにはレカソがよい」や「メロディがだんだん高くなると盛り上がりてくるし、だんだん強くなってくるもの」などごく当たり前と思われるような助言でも、個々に対して言葉がけをすることで、グループ活動をする際、生徒同士の伝え合う力を促すことにつながった。このことにより、音楽的語彙に乏しい生徒にとって、語彙力を増やすための手立てが必要であることを改めて実感した。

次に、創作と歌唱の関連した指導も大切であることに気づくことがあった。創作は音楽を形づくっている要素を聴き取り、感じ取ることが重要となるので歌詞と音楽を形づくっている要素を関わらせて指導することで多くの要素を知覚、感受するプロセスに遭遇できるのである。つまり、メロディを歌詞に乗せて歌ってみることで、「問い合わせる感じ」「応える感じ」を自然と知覚、感受できるのである。創作の場合、ただリコーダーで吹いて作っておしまいとならないよう、必ず生徒に作った曲を歌わせるような指導をするべきであることを痛感した。

楽譜を書く作業に入つて気づくことは、基礎的なリズム学習をしても、それでも尚、生徒は、正確なリズムを書き表すことに苦労しているということである。

中学校学習指導要領の「指導計画と作成と内容の取り扱い」(5)では、「創作の指導については、即興的な音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようになるとともに、必要に応じて作品を記録する方法工夫させること」と述べられている。このことは、創作の指導事項のア及びイのいずれの指導事項においても配慮するものである。創作においては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視している（原田；酒井 2011: 69）。

その際、西洋音楽の五線譜により記録法はもちろんのこと、生徒のイメージや感情、思いや意図を適切に記録するための記録方法を工夫することも柔軟で生き生きとした創作活動に結びつくものと考える。今回、言葉の抑揚を考えさせる際、音高の星座表を生徒に作らせたが、ここから

派生してそれぞれの思いや意図を表せる記譜法を生徒の創意で生み出させていくようなグループもあった。そのヒントになるかどうかはわからないが、我が国の伝統音楽に見られる記譜方法も参考になると思われる。たとえば、箏曲の数字譜、三味線の文化譜、雅楽などに見られる唱歌など、多様な記録方法への示唆を与えてくれるもの多数である。このような記録方法の工夫をすることで、より創造的な創作活動に結びつけることが可能になり、創作の幅が広がっていくことが期待される。

今回、小グループということで4人で曲種に応じた創作活動を開催していったが、本来、旋律を作ることや表現の工夫はできるだけ個人で取り組ませたいものである。しかし、時間的な制約や個人の能力差が大きく、充分に工夫できない実態があることは否めない。そこで、友だちと演奏を聴き合ったり、評価し合ったりする時間を設定し、友だちの作品のよいと思ったところを音楽を形づくっている要素を理由にして相互評価カードに書き込み、自分の作品に生かすようにできることが望ましい。実際に友だちの作品と作品をつなげたり、複数の音を同時に出せるような演奏や歌唱をしたりして、表現の幅を広げるとともに、旋律を作る楽しさや喜びを味わっていたグループもあった。

終わりに

今後、生徒の創作活動をより充実したものにしていくための手立てを最後に記す。

創作の学習では、作品としての完成度を追究するだけでなく、活動の過程で育まれていく能力に目を向けることが大切である。そのため、「言葉や音階などの特徴」「音素材の特徴」を手がかりとし、「旋律を作る」「構成を工夫して作る」といったことが学習指導要領に示されている。

そこで、実際に身近に聞いたり、歌ったりしている音楽はどのようにできているのか？また、作曲家はどんな工夫をして作品を完成させているのか？このような視点から作品にアプローチして、それを表現し、鑑賞して確かめ、もう一度、生徒自身の創作活動を振り返ってみると、意味のあることとなるだろう。そのようにしたならば、必ずやそれまで気づかなかった「曲づくりの仕掛け」や「音楽の仕組み」、「作曲家の思いや意図」などを発見できるであろう。それこそが、創作活動を経験した者が味わえる音楽の奥深さであり、醍醐味ではないか。こうした視点をもちながら、これまで音楽科で学習してきたものを総動員して、創作活動と他の領域を有機的に関連づけて題材構成を考えていくことは、たいへん有益なことであり、これからも引き続き、内容を深めていきたい研究である。

参考文献

今井 央子；酒井 美恵子

2012 『「創作」成功の授業プラン』 東京：明治図書。

小松 康裕

2010 『東京都中学校音楽教育研究会 平成22年度研究大会誌』。

原田 徹；酒井 美恵子

2011 『中学校音楽が魅力的に変わる！』 東京：明治図書。

資料1. 学習指導案

1 題材名 言葉や音階の特徴を生かし、表現を工夫して作曲しよう

～曲種に合った音楽作り～

2 題材の目標

- (1) 音と音とのかかわりに関心を持ち、創作をする学習に主体的に取り組む。
- (2) 旋律やテクスチュアを知覚して、その特質や雰囲気を感受して、音程や楽曲構成の特徴を活かした音楽表現を工夫してどのように旋律の創作をするか思いや意図を持つ。
- (3) アルトリコーダーの音色を生かしながら、音楽表現を工夫する技能を身に付けるとともに、鍵盤楽器、打楽器との小アンサンブルを楽しむ。

A表現 (3) ア「言葉や音階の特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること」

[共通事項] ア 旋律 リズム テクスチュア 音色 構成 イ 拍子 和音

指導計画の作成と内容の取り扱い

(5) [創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること ～後略

3 題材の評価規準

1 音楽への関心・意欲・態度	2 音楽表現の創意工夫	3 音楽表現の技能	4 鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none">① 曲種の違う音楽に関心を持って聴くことができる。② リコーダーで各種音階や曲を意欲的に練習することができます。③ リズムに関心を持ち、言葉に置き換えて意欲をもってリズム叩きをしている。④ 小グループで協力的態度をもって意欲的に練習している。	<ul style="list-style-type: none">① 音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、どのように旋律を創作するかについて思いや意図を持っている。② 言葉のもつリズムや抑揚を意識しながら旋律を創作している。③ 他のグループの工夫をとらえ自分たちの創作に生かそうとしている。	<ul style="list-style-type: none">① 音楽の構造や全体のまとまりを考えながら、旋律を組み合わせたり演奏したりする技能を身につけている。② それぞれの曲種に合った旋律を作り、リズムや伴奏付けの技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none">① 構成音の違いによる曲の雰囲気の違いを感じ取り、感想をまとめることができます。② 互いの作品を聴き、よさをとらえて感想をまとめることができます。

4 指導観

(1) 題材観

本題材は、ポピュラー音楽のコード進行、沖縄音階、民謡音階を手がかりに、音と音とのかかわりに着目して創作したり、聴いたりできる能力を育成するとともに、主体的に練習したり協力して工夫したりする資質の向上をめざす。そのために、生徒の実態に合わせた教材を選択し、学習を工夫して、取り組みやすい小グループワーク(4人～6人)を取り入れる。

(2) 生徒観

リコーダーについては、アルトリコーダーの幹音は指使いに問題はない。単旋律のリコーダー曲を数曲練習してきた。旋律の創作については、第1学年において8小節の創作を行い、1部形式の作品を作り上げた。その際、半終止と完全終止について理解している。

(3) 教材観

①「旅立ちの日に」 小嶋登作詞 坂本浩美作曲

♪勇気を翼に込めて・・からの8小節部分の主旋律を歌う際のコード進行は、ベースラインがド→シ→ラ→ソ・・という数多の曲で使われている定番のものである。この伴奏を用いて旋律をイメージして作曲へと導いていく。

②「谷茶前」 沖縄県民謡 宮里尚子 採譜

♪たんちやめぬ 浜に・・で始まる旋律。この旋律の伴奏には、三線がつま弾く小気味よいリズムと沖縄音階の旋律が付く。この伴奏を用いて旋律をイメージして作曲へと導いていく。

③「こきりこ節」 富山県民謡 伊野義博 採譜

♪こきりこの竹は・・で始まる旋律。この旋律の伴奏には、身近な打楽器を用いて、落ち着いたリズムに合わせて、民謡音階の旋律が付く。この伴奏にあわせて旋律の作曲へと導いていく。

1. ポピュラー音楽のコード進行では、数多の楽曲に用いられているものをハ長調・1部形式・8小節に簡明にまとめた。
(C→G→Am→Em→F→Dm→Gsus4→G→C→G→Am→Em→Dm→G→Cに旋律を乗せる。)

2. 沖縄音階では、三線がつま弾く前奏のような旋律を八分音符で2小節分演奏し、それを手がかりとて旋律を創作していくリードメロディの役割を果たすようにした。

3. 民謡音階では、構成音を連ねた旋律(カタカナ1点2音から上行し下行する旋律)をリードメロディとして、旋律を創作していく手がかりとした。また、低音は5度(カタカナニ音とイ音)の和音を奏でる。

1, 2, 3 それぞれの特徴や雰囲気を味わい、曲種に合った旋律を生徒から引き出すための手がかりとする。

5 指導と評価の計画 (4時間扱い)

時	学習目標 ○学習内容 ・ 学習活動 ◆指導上の留意点	評価基準				評価方法
		1	2	3	4	
第1時	学習目標 ・いろいろな音階の曲を聴き、それぞれの曲種の雰囲気を味わおう。 ・リズムを叩いて、言葉とリズムを一致させる。					
5分	○曲種のちがう音楽(谷茶前、こきりこ節、旅立ちの日に)を3曲、聴く。 ・どこの地方の音楽か、曲名などについて問答する。	①				発言
5分	○簡単な旋律作りのステップ学習(プリント教材) Step 1. リズム叩きをする。 Step 2. リズムに言葉を付ける。 Step 3. 言葉にリズムを付ける。	③				観察・机間指導
40分						

時	学習目標 ○学習内容 ・ 学習活動 ◆指導上の留意点	評価基準				評価方法
		1	2	3	4	
第2時 25分	学習目標 ・歌詞を伴った1部形式の旋律を創作する。【作曲の導入編】 ○簡単な旋律作りのステップ学習（プリント教材） Step 4. リコーダーを使い、音を探し、リズム譜に旋律を付ける。 Step 5. 8小節・1部形式の曲にまとめる。 ◆この単元の今後の見通しが立つように話をする。		(1)			観察・机間指導
第3時 3分	学習目標 ・アルトリコーダーで曲種に合ったメロディを作ろう。【作曲の応用編】 ○プリント教材[A]「曲種の違う音階を吹いてみよう」を教師から受け取り、構成音の違いによる曲の雰囲気の違いをリコーダー演奏し、感じ取る。				(1)	ワークシート
5分	○プリント教材[B]「曲種のちがう音楽を吹こう」を教師から受け取り、楽譜を見ながら再度、3種の曲を聴く。 ・吹いてみて気づいたこと、発見したことなど問答。 ・3種の曲を演奏し、それぞれの趣を味わう。 *グループ編成（くじ引きで作曲ジャンルを決める）		(2)			観察・発言
4分						
8分	○[Bプリント] ①のメロディ、②③のおはやし風メロディや音階を手がかりにして、それぞれの曲種の雰囲気・特徴をつかむ。 ・グループの中で鍵盤楽器、打楽器を分担して、音楽の構造や全体のまとまりを考え、どのような伴奏がよいか即興的に試してみる。 ・鍵盤楽器や打楽器の音の動きを意識しながら、自分たちで選んだ（考えた）歌詞をもとに旋律を作る。 〔グループで1作品、曲を作る。〕 ○言葉のもつリズムや抑揚を手がかりに曲全体のメロディラインを生かした曲を作る。		(1)			机間指導
30分			(2)			机間指導
第4時 20分	学習目標 ・自分たちで作った音楽をグループごとに発表し、成果を味わう。 ○グループごとに発表に向けて意欲的に練習する。		(2)			
18分	○それぞれの曲種にあった雰囲気が出せるよう表現を工夫する。 ・練習と創意工夫の成果を発表する。			(1)		机間指導
12分	○互いの発表を聴き、感想を発表したり、演奏の思いや意図を伝える。			(2)	(2)	鑑賞・評価 相互評価表

資料2. ワークシート

♪創作活動に入る前に・・・

Step 1 [音符、休符を見て → リズムを叩く]

1 「音符は4分音符 と8分音符 の2種類、
休符は4分休符 と8分休符 の2種類、

合計4つしか使いません」

2 「これから見せるリズムを続けて4回叩いて下さい」

(リズムに乗って) 「お次は何かな? 1, 2 どうぞ!」

①	②	③	④	⑤
()	()	()	()	()
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
()	()	()	()	()

Step 2 [リズムに → 言葉をつける]

「次の活動は、これらのリズムに言葉を当てはめていきたいと思います」

◇その時のルールは、次の3つです!

例) ①ゴーヤー ②みそしる ③なつとう

◇「では、一人1つずつ言葉を考えもらいます」(黒板にカードを順番に貼る)

◇「順番でリズムリレーをします」(自分のリズムを叩いてから言葉を唱えます!)

◇「では、自分の叩くことになったリズムに合った言葉を考えてみましょう

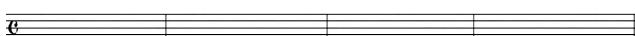
例) (solo) → ケチャップ → (Tutti) → ケチャップ

Step 3

[言葉にリズムをつける] 5・7・5の俳句にリズムをつけてみよう。

しづけ 閑さや 岩にしみいる せみの声 (松尾芭蕉)
↓ ↓ ↓

このリズムを休符を上手に使って
4/4拍子で4小節の楽譜に書いて
みよう。



さらに工夫して書いてみよう。



よくよう
☆次に、俳句を読んで言葉の抑揚やアクセントについて調べてみよう。

(星座表)

☆言葉の抑揚で注意する点…→「雨・飴(アメアメ)の歌」で考えよう!

1. あめがふる うまくはいくて あめなめる
2. はしをもる あめ あめ (箸: はし 端: はし)

言葉の自然な抑揚に合わせたメロディを考える。

Step 4

(いよいよ作曲だ!)

◎歌詞をもとに作曲するプロセス(過程)

①星座表→②リズム譜→③メロディ 伴奏 おはやし にのせて

[(2) で作ったリズム譜にメロディをつける]

ド、レ、ミ、ファ、ソの5つの音で作曲してみよう。



[注](作曲上のルール) ①5の音で作る ②最後はドの音で終わる

Step 5

Step 4 で作ったメロディを拡大して、8小節にまとめてみよう。

[注] 1段目の終わりの音は、ド以外の音にして、次に続くメロディにしよう。



歌詞も増やしましょう。

(星座表)

(ポイント)・反復、変化・続く感じ、終わる感じ



A 曲種の違う音階を吹いてみよう!

①

②

③

B 曲種のちがう音楽を吹こう!

①「旅立ちの日に」より 坂本浩美 作曲

ゆうきをつばさにこめてきぼうのかぜにのり
このひろいおおぞらにゆめをたくして

②「谷茶前」 沖縄県民謡 宮里尚子 採譜

たんちやめぬーはまにヨー スールー ルー ぐわーがゆてい
ていんどへいースルールー ぐわーがゆてい いんどへい

ナンチャマシマシ ディアングワソイソイ ディアングワヤクスク

③「こきりこ節」 富山県民謡 伊野義博 採譜

こきりこの一たけはしちすんごぶーじや
ながーいはーそでのーかなかいーじゅー

マドノサンサモデデレコデンハレノサンサモデデレコデン

伴奏にあわせて作曲しよう

沖縄音階

リコーダー

ピアノ

※前奏として演奏してもよい

パーカッション

リコーダー

ピアノ

パーカッション

基本リズム

沖縄音階

伴奏にあわせて作曲しよう

民謡音階

リコーダー

ピアノ

※前奏として演奏してもよい

パーカッション

リコーダー

ピアノ

※出だしのモチーフとして使用してもよい

パーカッション

基本リズム

民謡音階

伴奏にあわせて作曲しよう

ポピュラー音楽のコード進行

リコーダー

ピアノ

パーカッション

リコーダー

ピアノ

パーカッション

(作曲例)

しづけさや いわにしみいろ セオの こえ
すてきだな おくみほそみち いきたい な

『言葉の種』

どれも5・7・5でできています！これを手がかりに旋律を作ってみましょう。
また、これらを参考にしてオリジナルの詩を作ってみてもよいです。

「青春のうた」	最後まで	あきらめないで	がんばろう	・・・「ポピュラー定番のコード進行」
前向いて	歩いていけば	道開く		
「恋夏のうた」	夏が行く	君と過ごした	まぶしい日々	・・・「ポピュラー定番のコード進行」
今はただ	思いでたどり	涙する		
「秋のうた」	楽しもう	年に一度の	お祭りだ	・・・沖縄音階
エイサーの	口笛	たいこ	胸おどる	
「島の風」	三線の	音色が響く	街角に	・・・沖縄音階
今日もまた	のどかな時間	過ぎていく		
「春がきた」	雪が解け	あらこち芽を出す	ふきのとう	・・・民謡音階
生き物が	喜びあふれる	春がきた		
「食欲の秋」	秋が来た	まつたけご飯が	食べたいな	・・・民謡音階
空仰ぎ	元気モリモリ	走り出そう！		

**聖徳大学 音楽文化研究
第12号**

平成25年3月27日印刷
平成25年3月31日発行

発行者 川並 弘純
発行所 聖徳大学大学院音楽文化研究科
聖徳大学音楽学部音楽文化研究会
〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550
電話 047-365-1111 (大代表)
印刷所 株式会社シップス
